

コーディングマニュアル 第6章和雑誌書誌レコード 抜粋

6.0.3 総称的タイトル

逐次刊行物のタイトルが総称的な語からなる場合、他の逐次刊行物との識別を容易にするため、TR フィールドには必ず責任表示を記録する。(6.2.1F5.4, 6.2.1F5.5)

6.0.3A (判定基準)

総称的なタイトルであるかどうかの判定は、次のような基準に従い行う。(7.0.3)

(1) ISDS における総称的な語の定義は、「出版物の種類及び(または)頻度を示すもの」である。各々の判断は、この定義によるものとする。

(例)

会議録	月報	速報
会誌	研究	年報
会報	研究報告	プログラム
概要	広報	報告
季報	雑誌	報告書
紀要	資料	要覧

(2) タイトル中に主題内容や範囲を示す語を含む(あるいはこれらの語によって構成されている)場合は、総称的とはみなさない。

(例)

近代文学研究
経済
経営研究
人類学研究
天文学
行動科学研究
化学雑誌
科学
医学中央雑誌

(3) タイトル中に出版物の頻度または種類を示す語以外のものを含む場合は、通常総称的タイトルとみなさない。

(例)熊本市勢要覧
健康管理年報

6.1 コードブロック

6.1.5 YEAR

6.1.5E (データ記入及び記入例)

E1

刊年 1、及び刊年 2 には、4 桁の西暦年を記入する。

刊年 1 と刊年 2 の間には、1 桁のスペースを記入する。

YEAR:1988 1990

PUB:京都 : 同朋社出版(発売), 1988.6-1990.11

YEAR:1986 1990
PUB:東京 : 三井銀行調査部 , 1986-1990

YEAR:1990
PUB:三鷹 : 国立天文台 , 1990-

E2

出版が開始された年内に出版・頒布が終了した場合は、その同一西暦年を刊年 1 としても刊年 2 としても記入する。

YEAR:1987 1987
PUB:東京 : 交通協力会 , 1987

E3

出版日付と頒布(発売等)日付が異なる場合は、出版日付に対応する西暦年を記録する。

YEAR:1987
PUB:東京 : ユーロマネー東京事務所 , c1987-

YAR:1953
PUB:東京 : 日本鉄鋼協会 , 1953 印刷-

E4

明確な出版・頒布日付の表示がないために、著作権表示年、印刷年、製作年、序文・あとがき等の日付、推定による出版・頒布日付を PUB フィールドに(複製資料の場合は NOTE フィールドに)記入した場合は、それらの日付に対応する西暦年を記録する。

・初号あるいは終号に出版・頒布年の表示がなく、かつ著作権表示年(又は印刷年)の表示もない場合

YEAR:1983
PUB:[東京] : 国際交流基金 , 1983 序-

・初号、あるいは初号と終号の双方を所蔵しているが、出版・頒布年の表示がないため、規定の情報源以外からの情報を記録する、あるいは情報を推定補記する場合

YEAR:1977
PUB:東京 : 全日本舞踊連合 , [1977]-

YEAR:1972 1976
PUB:大阪 : 大阪府医師会 , 1972-[1976]

YEAR:1966 1970
PUB:東京 : 音楽之友社 , [1966]-[1970]

E5

出版・頒布日付に対応する西暦年が不明の場合は、不明部分の数字をハイフンで代用する。

YEAR:19--
PUB:大阪 : 日本貿易振興会大阪支部 , [19--]-

E6

初号を所蔵していないため、出版・頒布開始年が PUB フィールドに記入できない場合でも、刊年 1 には「1---」を記入する(初号を所蔵していない場合、PUB フィールドには出版・頒布開始年を推定記入してはならない)。

・終号は所蔵しているが、初号を所蔵していないために出版・頒布開始の日付が確認できない場合

YEAR:1--- 1990

PUB:東京 : 経済調査会出版部 , -1990

NOTE:記述は No. 726 (昭 36. 11)による

・初号と終号の双方を所蔵していないために出版・頒布開始及び出版・頒布終了の日付が共に確認できない場合(刊行継続中のため、終号が事実上存在しない場合を含む)

YEAR:1---

PUB:岡山 : 日本細胞生物学会

NOTE:記述は No. 2 (1974. 8)による

E7

複製資料の場合は、原本の出版・頒布開始の日付に対応する西暦年を刊年 1 に、原本の出版・頒布終了の日付に対応する西暦年を刊年 2 に記入する。

YEAR:1951 1971

PUB:京都 : 臨川書店 ,1985

NOTE: 原本の出版事項: 東京 : 俳文學會 , 1951-1971

6.1.5F (注意事項)

F1 刊年 1 及び刊年 2 には、年月次データを記入してはならない。

F2 同一の号が何刷も重ねて出版されている場合、刊年 1、及び刊年 2 には、初刷の出版・頒布年を記入する。

F3 複製資料の場合、刊年 1 及び刊年 2 には、複製時の出版・頒布年を記入してはならない。

F4 終号は所蔵しているが、初号を所蔵していないため、出版・頒布開始年が PUB フィールドに記入できない場合は、必ず刊年 1 に「1---」と記入したうえで、刊年 2 を記入する。刊年 2 のデータだけを単独で記入してはならない。

F5 刊年 1 と刊年 2 の間には、スペース以外の文字を記入してはならない。

6.1.6 CNTRY

6.1.6E6. (データ記入及び記入例)

刊行時点での出版国コードと現在の出版国コードが異なる場合

CNTRY:ja

PUB:那覇 : 沖縄公論社 , 1961-

CNTRY:ur

PUB:豊原 : 樺太商工經濟會 , 1943-

6.1.8 TXTL

6.1.8E 注意事項)

E3

初号(あるいは記述の根拠となった所蔵最古号)の本文に限らず、以降の全巻号の本文の言語についてデータ記入を行う。したがって、従来使用されていなかった言語によるテキストが掲載されるようになった場合には、その言語に対応するコードを追加記入する。

E4

本文が複数の言語で書かれている場合(ただし、6言語以下)は、当該目録対象資料において優勢な言語の順にコードを記入する。それぞれのコードは、間にスペースを置かず、続けて記入する。優勢な言語の順位を確定できない場合は、言語コードのアルファベット順にコードを記入する。

TXTL:jpnengfreger

E5

本文が7つ以上の言語で書かれている場合は、主たる言語に対応するコードを1つだけ選択し、当該コードを記入する。さらに、当該コードに続けて、コード「mul」(多言語)を記入する。主たる言語を確定できない場合は、コード「mul」のみを記入する。

TXTL:jpnmul

E6

本文が複数の言語で書かれていても、多言語で書かれていること自体にさしたる意味がない場合は、主たる言語に対応するコードを1つだけ選択し、当該コードを記入する。さらに、当該コードに続けて、コード「mul」を記入する。

主たる言語を確定できない場合は、コード「mul」のみを記入する。

TXTL:jpnmul

TR:国立国会図書館所蔵科学技術関係欧文会議録目録 / 国立国会図書館専門資...

6.1.18 CODEN

6.1.18E(データ記入及び記入例)

CODEN フィールドには、目録対象資料に対して米国材料試験協会(American Society for Testing and Materials)、Chemical Abstracts Service(1975年以降)が付与した誌名識別用コード、CODENを記入する。

CODEN:JUNKAU

CODEN:KEIKA6

CODEN:NIPEA

6.1.18F(フィールドの繰り返し)

F1 同一資料に複数のCODENが付与されている場合は、最新のものをCODENフィールドに記入する。

F2 同一資料に5桁のものとは6桁のものの2種類のCODENが付与されている場合は、6桁のものをCODENフィールドに記入する。

F3 CODENフィールドに記入しなかったCODENは、NOTEフィールドに記入できるが、これは選択事項である。

6.1.18G (注意事項)

CODEN フィールドにかかわるエラーメッセージが表示された場合は、桁数不足(4 桁以下)や誤植などの原因のため、記入した番号は不正である。

不正な番号を CODEN フィールドに記入してはならない。

なお、CODEN フィールドに記入しなかった CODEN は、NOTE フィールドに記入できるが、これは選択事項である。

6.2 記述ブロック

6.2.1 TR

F1.2(2 つ以上の言語で表示されてある場合)

同一情報源に異なるタイトルの表示がある場合、より顕著に表示されているものを本タイトルとする。(NCR87R 13.1.1.1C)

本タイトルとして記録しなかったものは、並列タイトルとする。

F1.4(回次・日付などを含むタイトル)

本タイトル中に、号ごとに変わる回次、日付などが含まれる場合は、この部分を省略する。(NCR87R 1.1.1.1B イ)

F2(従属タイトル)

F2.1(データ記入の原則)

従属タイトル部には、部編記号(番号付け、アルファベットなどによる部編の順序付けの表示)、部編名、またはその両方が含まれる。(NCR87R 13.1.1.1A)

共通のタイトル部分と従属タイトル部分は、ピリオド、スペース(.)で区切って記録する。

このような場合は、主情報源に表示された本タイトル各部分の構成順序にこだわらない

TR:日本女子大学紀要. 家政学部||ニホン ジョシ ダイガク キョウ. カセイガクブ

F2.2(部編記号がある場合など)

従属タイトル部が、部編記号と部編名からなる場合は、その間をコンマ、スペース(,)で区切って記録する。

TR:記録. 別冊, 判例紹介||キロク. ベッサツ, ハンレイ ショウカイ

従属タイトル部が 2 以上の階層を持つ場合は、上位にあたるものから順に、ピリオド、スペース(.)で区切る。

TR:金沢大学教育学部紀要. 自然科学編. 地学教室業績||カナザワ ダイガク キョウイク
ガクブ キョウ. シゼン カガクヘン. チガク キョウシツ ギョウセキ

F2.3(独自のタイトルを持つ部編資料)

別個に出版され、独自のタイトルを持ってはいるが、他の逐次刊行物の部編にあたる出版物の場合、主情報源に共通タイトルが表示されていれば、それらを組み合わせた形で本タイトルを記録する。

共通タイトルが主情報源上に表示されていない場合は、従属タイトルだけを TR に記録する。共通タイトルは「その他のタイトル」として、VT フィールドに「タイトルの種類コード」(PT)と共に記録する。(6.2.6F6.1)

ただし、共通タイトルが主情報源以外の箇所には表示されておらず、従属タイトルがそれ単独では固有のタイトルとならない場合は、例外として、共通のタイトルと従属タイトルが共に表示されている箇所を本タイトルの情報源とし、それらをあわせたものを本タイトルとして記録する。この場合、情報源の箇所について、NOTE フィールドに記録する。(6.2.7F3.5)

NOTE:共通タイトル部は奥付による

F2.4 (従属タイトルが主情報源上にない場合)

主情報源上に共通タイトルが表示され、目録対象資料の他の箇所に従属タイトル表示がある場合は、従属タイトルを角がっこ([])に入れて補記し、その情報源を NOTE フィールドに記録する。

TR:国際関係研究. [特集編]||コクサイ カンケイ ケンキョウ. トクシュウヘン

NOTE:従属タイトル部は奥付による

F2.5 (共通タイトルが不安定な場合)

共通タイトルが従属タイトルと同一情報源上にあったりなかったりする場合、または号によって表現がまちまちである場合、この共通タイトルは TR フィールドには記録せず、VT フィールドに「タイトルの種類コード」(PT)と共に記録する。(6.2.6F6.2)

F2.6 (付録・補遺資料)

主情報源に、ある逐次刊行物のタイトルとその付録や補遺であることを示す表示がある場合、本体にあたる逐次刊行物のタイトルを共通タイトルとして記録し、ピリオド、スペース(.)に続けて、付録や補遺である表示を記録する。

また、付録や補遺を示す語が、本体のタイトルと結びついて 1 つのタイトルになっている場合は、その表示の通りに記録する。

TR:埼玉大学紀要. 増刊||サイタマ ダイガク キョウ. ソウカン

TR:別冊みづゑ||ベッサツ ミズエ

ただしこれは、付録や補遺が本体とは別の独自の巻号付けを持つ場合に限る。本体と同一の巻号付けを持つ場合は、別レコードを作成しない。

F2.8 (逐次刊行物全体の順序づけを表す表示)

「新編」、「II」あるいはこれと類似した、年代順のシリーズ呼称を表す表現が加わった逐次刊行物は、先の逐次刊行物と区別して新たなレコードを作成する。先の逐次刊行物と共通するタイトルの後、ピリオド、スペース(.)に続けて「新編」などの表示を記録する。(NACSIS 独自規定)

TR:科学技術文献総覧. 新輯||カガク ギジュツ ブンケン ソクホウ ソウラン. シンシュウ

TR:エピステーメー. II||エピステーメー. 2

TR:海外大学経営セミナー報告書. 第 2 次||カイガイ ダイガク ケイエイ セミナー ホウコクシヨ. ダイ 2 ジ

F3 (並列タイトル)

並列タイトルは、本タイトルと同一の情報源上に表示された本タイトルの別言語・別文字による表現である。(NCR87R 1.1.3.1)

F3.1 (データ記入の原則)

並列タイトルは、本タイトルに続けて記録する。(NCR87R 1.1.3.2, 13.1.3.2 別法)

本タイトルと並列タイトルは、スペース、等号、スペース(=)で区切って記録する。

TR:シュトイエル = Steuer||シュトイエル

TR:Lumière = 季刊映画リュミエール||Lumière = キカン エイガ リュミエール

6.2.3 VLYR

6.2.3F (データ記入及び記入例)

F1 (データ記入の原則)

F1.1 (巻次の転記)

巻次の転記は、数詞・数字は原則としてアラビア数字を用いる。巻次の「第」の字は省略する。(NACSIS 独自規定)

欧文表記の場合は、各言語の大文字使用法、標準的な略語・数詞に変換して記録する。(NCR87R 付録 2)

VLYR:1 輯
VLYR:1 回 (表記は「第 1 回」)
VLYR:1 巻 1 號
VLYR:Vol. 1, no. 1

F1.2 (年月次の転記)

年月次は、対応する巻次に続けて丸がっこ(())内に記録する。転記にあたっては、数詞・数字は原則としてアラビア数字を用いる。

明治以降の元号は、頭 1 字のみに短縮する。「年・月・日」「号・版・度」など年月次の数字に付随する文字は、省略する。(NACSIS 独自規定)

欧文表記の場合は、各言語の大文字使用法、標準的な略語を使用して記録する。(NCR87R 付録 2)

VLYR:1 巻 1 号 (大 1.12)-
VLYR:1 輯 (明 41.5)-
VLYR:1 次 (明 6.7)-65 次 (昭 15)
VLYR:1 回 (昭 61.2)-

F2 (巻次・年月次の記述)

F2.1 (初号・変遷直後号の記録)

初号・変遷直後号の巻次年月次とハイフン(-)を記録する。

VLYR:1 集 (昭 59.5)-
VLYR:-240 号 (昭 18.12) ; 1 巻 1 号 (昭 23.10)-

F2.2 (継続刊行途中号の記録)

初号の巻次・年月次が既に記録されている場合は、何も記録しない。

F2.3 (終号・変遷直前号の記録)

ハイフン(-)と終号・変遷直前号の巻次・年月次を記録する。

VLYR:-復刊 4 号 (昭 62.10)
VLYR:-132 回 (明 43.6)

F2.4 (初号に巻次・年月次の表示がないもので推測可)

初号に巻次・年月次の表示がない場合、それに続く号で順序づけと見なせる数字・記号が出現する場合、その表示方法に従って、初号の巻次・年月次を補記することができる。(NCR87R 13.3.1.1)

VLYR:創刊[1]号 (1991.3)-
VLYR:創刊準備[0]号 (1981.11)-

VLYR:[昭和33年上期(昭33.上期)]-

F2.5(巻次がない場合)

巻次の表記が全く現れない場合は、年月次を代用して記録する。(NACSIS独自規定)

巻次が途中で消滅した場合には、巻次変更の扱いが必要である。

VLYR:平成元年1月号(平1.1)-

VLYR:昭和41年(昭41)-昭和49年(昭49)

VLYR:1巻(昭40)-4巻(昭43);昭和44年(昭44)-

(5巻以降には、巻次表示が現れない)

F2.6(年月次がない場合)

年月次の表示が全く現れない場合や、途中で消滅した場合には、出版年、頒布年などを補記する。(NCR87R 13.3.2 別法、補記についてはNACSIS独自規定)

VLYR:28巻7号([平1.3])-

F2.7(合併号の場合)

記入すべき号が合併号である場合、合併号を一つの号であると見なし、号を切り分けては記録しない。その場合の接続記号は、表紙などに用いられている表示をそのまま記録する。

VLYR:昭和34~35年度(昭34~35)-昭和63年度(昭63)

VLYR:1号(1951.12)-149-150号(1989.3)

VLYR:1巻1・2号(平1.4・5)-

VLYR:6/7/8号(1964/1965/1966)-

F2.8(単一の号しか刊行されなかった場合)

単一の号しか刊行されなかった場合は、その号が初号でありまた終号であると見なし、その号の巻次・年月次を2つ記入し、ハイフン(-)でそれらをつなぐ。(NACSIS独自規定)

VLYR:1号(1960.11)-1号(1960.11)

F4(巻次・年月次表示の変更)

巻次の取り方が変更になった場合、旧方式による初号、終号の巻次・年月次を記録したあと、スペース、セミコロン、スペース(;)に続いて新方式による巻次・年月次を記録する。(NCR87R 13.3.1.3)

ただし、以下のような方法を採用する。(NACSIS独自規定)

F4.1(優先順位が上位の表示方法が出現した場合)

VLYR:1号(昭60.2)-12号(昭60.12);1巻1号(昭61.1)-

F4.2(優先順位が上位の表示方法が消滅した場合)

優先順位が下位であった表現方法を繰り上げて使用する。

VLYR:1巻1号(平2.1)-1巻12号(平2.12);13号(平3.1)-

F4.3(巻次の数字が後退、反復、極端に飛躍した場合)

VLYR:1巻(平2.1)-12巻(平2.12);1巻(平3.1)-

このような場合、別に書誌レコードを作成すべき場合もある。出版者や編集者の意図から継続関係の十分な調査が必要である。(0.4.3B4)

F4.4(年月次表示形式が変更の場合)

年月次の変更は巻次変更とは見なさず、記録しない。ただし、巻次表示がないために、年月次を

代用して巻次としている場合には、巻次変更と同様の扱いとし、スペース、セミコロン、スペース (;) に続けて、新しい年次を記録する。

年号が年次となっている場合で、改元前と改元後の年号の双方が併記されている場合は、原則として改元後の年号を記録する。双方が併記されている期間については、NOTE フィールドに記録する。

VLYR:-昭和 64 年版 (昭 64) ; 平成 2 年版 (平 2)-

VLYR:-昭和 64 年 1 月 1 日 (昭 64.1.1) ; 平成 2 年 1 月 1 日 (平 2.1.1)-

VLYR:-昭和 63 年平成元年度 (平 1)-

F5(巻次変更とは見なさない場合)

F5.1(巻次の呼称の変化)

単なる呼称の変化は、巻次変更とはしない。

F5.2(巻次体系の階層は変化するが、巻レベルの数値が一貫している場合)

VLYR:1 巻 (平 2.1)-

× VLYR:1 巻 (平 2.1)-12 巻 (平 2.12) ; 13 号 (平 3.1)- のようには記録しない。

F5.3(他の逐次刊行物と巻次体系を共有している場合)

他の逐次刊行物と巻次体系を共有しており、そのために巻次が不連続になる場合は、巻次変更とはしないで、NOTE フィールドにその事実を記録する。

第一分冊が、1 巻 1 号、1 巻 3 号、1 巻 5 号 ...

第二分冊が、1 巻 2 号、1 巻 4 号、1 巻 6 号 ...

F5.4(誤植による巻次の数値の後退、反復、飛躍の場合)

誤植による巻次の乱れは、巻次変更としない。誤植の事実については、NOTE フィールドに記録する。(6.2.7F3.12)

F5.5(巻次が反復する場合)

「巻」に相当するものがなく、号数のみが反復する場合には、号数が元に戻るたびに巻次変更とはせず、適宜の巻(年次など)を補記し、巻次が一貫するように記録する。

VLYR:[1990], 1 (1990.1)-[1991], 12 (1992.12)

× VLYR:1 (1990.1)-12 (1990.12) ; 1 (1991.1)-12 (1992.12) のようには記録しない。

F6(資料全体の順序づけを示す表示)

資料全体の順序づけを示す表示(「II」、「第 2 次」など)の変更・追加は、巻次変更とはせず、タイトル変遷と見なし、別書誌を作成する。(NACSIS 独自規定)(6.2.1F2.8)

F7(巻次・年月次に関する注記)

巻次・年月次について説明する必要があるときは、NOTE フィールドに記録する。(6.2.7F3.12)

NOTE:号外: 昭和 32 年 9 月, 昭和 47 年 3 月

6.2.4 PUB

6.2.4F (データ記入及び記入例)

F4 (出版年・頒布年)

出版年は、西暦紀年で記録する。(NCR87R 1.4.3.2A)
ただし、必要に応じ他の暦の付記、補記をする条項は採用しない。
通常は、年までのレベルで十分だが、必要に応じて月、日をピリオド(.)で区切って記録してもよい。

F4.1 (出版年が年次表示と一致する場合)

出版年が年次表示と全部または一部が一致する場合も、これを記録する。

TR:新しい家庭科 We||アタラシイ カテイカ we
VLYR:1 巻 1 号 (1982.3)-10 巻 12 号 (1992.1)
PUB:調布 : ウィ書房 , 1982-1992

F4.2 (出版年が不明の場合)

初号あるいは終号を所蔵していない場合は、出版年は記録しない。

PUB:東京 : 科学新聞社 , -1991 (初号を未所蔵)
PUB:東京 : 外務省 (初号, 終号共に未所蔵)

初号あるいは終号を所蔵しているが、出版年の表示がなく不明の場合は、頒布年、著作権表示年、製作年を記録する。(NCR87R 1.4.3.1A)

PUB:浦和 : 国際交流基金日本語国際センター , c1994-

出版年、頒布年、著作権表示年、及び製作年のいずれも表示がないか、不明のときは、推定出版年を補記して記録する。(NCR87R 1.4.3.2D)

PUB:東京 : 文部省 , [1951]-[1983]
PUB:東京 : 美術館連絡協議会 , [19--]-1991

6.2.4G (フィールドの繰り返し)

G1.1.2 (同一出版地の複数の出版者)

同一の出版地、頒布地に対して 2 以上の出版者が表示されている場合は、顕著なもの、最初のもの順で一つを選択して記録する。

または、2 番目以降の出版者もスペース、コロン、スペース(:)に続けて記録することができる。

PUB:東京 : 国立大学図書館協議会東京地区協議会 : 東京地区国立大学図書館ネットワーク研究会

6.2.4I (注意事項)

I1 (出版地、出版者などの変更)

刊行中での出版地、出版者などの追加、変更については、その名称と変更時点の巻次・年月次を NOTE フィールドに記録する。(6.2.7F3.13)

このような出版事項の変更は、別書誌レコード作成の根拠とならない。(0.4.3B5)

I2 (並行して出版している出版者)

並行して別の出版者から刊行された資料に関する事項を記録してはならない。このような場合は別書誌を作成する。(0.4.3B5)

6.2.5 PHYS

6.2.5F (データ記入及び記入例)

F2 (特定資料種別表示と資料の数量)

F2.1 (刊行中の逐次刊行物)

刊行中のものは数量を記録せず、特定資料種別のみを記録する。印刷資料の場合は、特定資料種別の名称は記録せず、単位名称として「冊」を記録する。(NCR87R 13.5.1.2A)

PHYS:冊 ; 23cm

PHYS:冊 ; 17-19cm

F2.2 (完結した逐次刊行物)

完結した逐次刊行物については、特定資料種別と数量をアラビア数字で記録し、それに続けて、単位名称を記録する。印刷資料の場合は、特定資料種別の名称は記録せず、数量と「冊」のみを記録する。

修正しようとする図書館が刊行された全巻(号など)を所蔵していない場合でも、VLYR フィールドに初号・終号の記録があり、途中の巻号の状況に巻の後戻りや飛躍がないことが、記録の他の部分(登録された所蔵データなど)から、十分推測される際は、数量を記録することができる。(NACISIS 独自規定)

PHYS:11 冊 : 挿図 ; 21-23cm

PHYS:マイクロフィルムリール 8 巻 ; 10cm , 35mm

F3 (その他の形態的細目)

その他の形態的細目は、印刷資料の場合は、記録しない。印刷資料でない場合は、必要ならばこれを NOTE フィールドに記録する。(6.2.7F3.14 , NCR87R 13.5.2)

6.2.6 VT

6.2.6E (データ要素の情報源)

VT フィールドのデータ要素の情報源は、当該出版物を含むあらゆるところから採用できる(NCR87R 13.0.3.2)

6.2.6F (データ記入及び記入例)

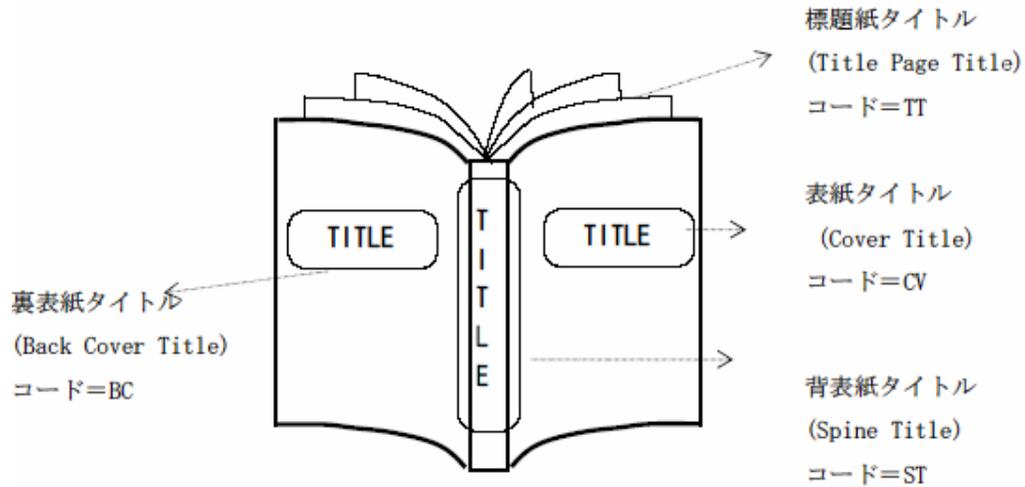
F1 (データ記入の原則)

F1.1 (初号もしくは所蔵最古号の場合)

「その他のタイトル」が初号もしくは(記述の基準とした)所蔵最古号に表示されている場合、タイトルの表示箇所に関わるタイトルの種類コードと共に VT フィールドに記録する。

TR:愛媛法学会雑誌 / 愛媛大学法学会 [編]||エヒメ ホウガッカイ ザッシ

VT:BC:Ehime law review (裏表紙タイトル)



初号 (または所蔵最古号)

F1.2(初号もしくは所蔵最古号以外の場合)

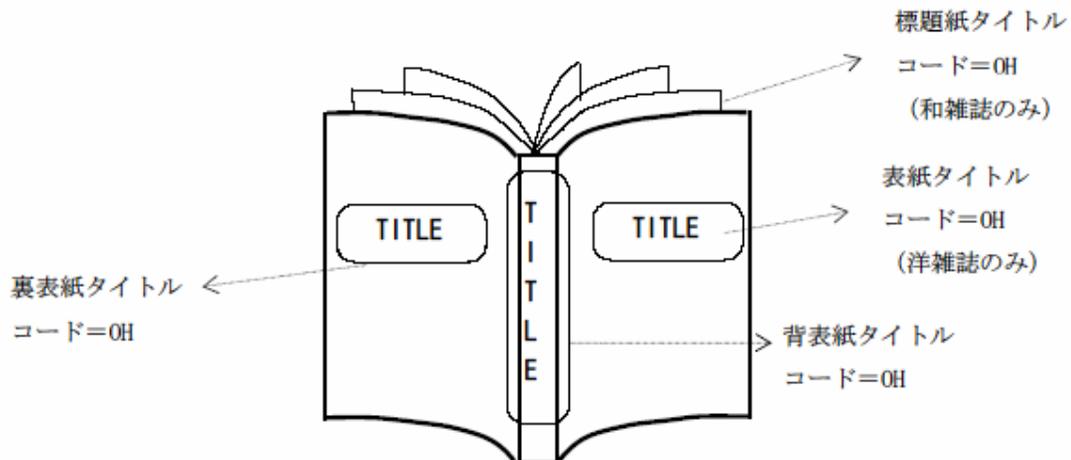
「その他のタイトル」が初号もしくは(記述の基準とした)所蔵最古号以降の号に表示されている場合、タイトルの表示箇所に関わらず、タイトルの種類コード(OH)と共に VT フィールドに記録する。タイトルの表示箇所に関するコード(AT, BC, CL, CP, CV, MT, RT, ST, TT)は使用しない。

さらに、そのタイトルの表示巻次・年月次・箇所についての説明を NOTE フィールドに記録する (6.2.7F3.10)

TR:コンクリートブロック / 日本コンクリートブロック協会 [編集]||コンクリートブロック

VT:OH:月刊コンクリートブロック||ゲッカコンクリート ブロック

NOTE:奥付タイトル: 月刊コンクリートブロック (162号 (1997.3)-)



初号 (所蔵最古号) 以外の号

6.2.7 NOTE

6.2.7D (フィールド内容とデータ要素)

NOTE フィールドには、目録対象資料に関する注記をデータ要素として記録する。

	注 記 例
記述の根拠号	記述は3巻2号(1997)による 記述は平成2年度版による Description based on: Vol. 1, no. 3 (1992)
情報源	タイトルは題字欄による Title from cover
タイトル関連情報	タイトル関連情報の追加: シンポジウム論文集(1977-) タイトル関連情報の変更: 能率指導雑誌(1巻1号(1980.1))→通俗能率雑誌(1巻2号(1990.2-)) Other title information: quarterly newsletter, Dec. 1996- Other title information varies: journal of research, Vol. 4, no. 1 (1997)-
並列タイトル	並列タイトルの追加: Business accounting (1988-) 並列タイトルの変更: The statistical report (1号(1967)-8号(1975)) →The statistical journal (9号(1976)-) Vols. for 1990/92- have parallel title: German press Parallel title varies: Statistical trends in transport, 1982-
責任表示	責任表示の変更: 日本電信電話公社(-13巻3号(1983.9))→日本電信電話株式会社(13巻4号(1989.12)-) 責任表示の追加: 宮城県漁業協会(昭和53年-) 編集: 宮武外骨 Prepared by: 1972 by Department. of Industry, Trade and Commerce; 1973-1979 by Special Project Division, Trade and Commerce Editor: 1985-1991, William Porter
出版に関する事項	出版地変更: 東京(-12号(1990))→国立(13号(1991)-) 出版者変更: 早稲田大学出版部(-5巻(昭21))→早稲田大学文学会((6巻(昭22)-)) 出版者追加: 日本関税協会(No. 132(昭62.4)-) 出版地は開催のたびに変更 刊行頻度変更: 隔月刊(-26巻)→月刊(27巻-) Vol. 3 (1982) published with Butterworths, London Vol. 5 (1988)- published: Boston Frequency varies: -v. 3, no. 2 (1986), quarterly; v. 4, no. 1 (1987)-, monthly

コーディングマニュアル 第17章 雑誌所蔵レコード 抜粋

17.2.1 HLYR

17.2.1B〔記述文法〕



17.2.1D〔データ記入及び記入例〕

D1 所蔵する目録対象資料の号のうち、年次が最も古い号と最も新しい号を選択し、それぞれの号に対応する年次（所蔵開始年次と所蔵終了年次）をハイフンで結んで記入する。

VLJR:1号(1971)-13号(1991)
HLYR:1971-1982
HLV:1-9
(1号(1971)から9号(1982)まで所蔵している場合)

[例追記] 書誌レコードVLJRフィールドに「VLJR:1巻(1965)-40巻(2005)」の記載があり、1号(1965)から9号(1974)まで所蔵している場合

HLYR:1965-2005
HLV:1-9

1961年から1992年までを所蔵し、1967年の中途に欠号が存在している場合

HLYR: 1961-1992 <.....(以下は正記入例)
× HLYR: 1961-1966,1968-1992 <.....(以下×は誤記入例)

D2 所蔵開始年次と所蔵終了年次には、4桁の西暦紀年をアラビア数字を用いて記入する。西暦紀年以外の年次表示を持つものに対しては、西暦紀年に統一変換して記入する。

VLJR:1巻(康徳5)-
HLYR:1938-1940
HLV:1-3
(1巻(康徳5)から3巻(康徳7)を所蔵している場合。満洲暦康徳5年は西暦1938年に、康徳7年は1940年に該当する)

D3 所蔵する号の年次が同一年内に収まる場合においてもその同一西暦年を2つ記入し、ハイフンでつなぐ。

VLJR:1号(1980)-
HLYR:1982-1982
HLV:3
(3号(1982)のみ所蔵している場合)

VLJR:No. 1(1970)-
HLYR:1972-1972

HLV:13-18

(No.13から18まで所蔵しているが、各号に対応する年次は全て1972年の場合)

[例追記]1995年のもののみ所蔵する場合

HLYR: 1995-1995

× HLYR: 1995

D4 所蔵範囲内で巻次変更がある場合は、巻次変更の位置にセミコロン「;」を挿入し、当初の巻次表示方式をとっていた期間においての所蔵の年次の範囲と、新方式の巻次表示方式による期間においての所蔵の年次の範囲を記入する。

VLJR:1号 (1985)-5号 (1989) ; 1990年度 (1990)-

HLJR:1988-1989;1990-1990

HLV:4-5;1990

(巻次変更前の4号(1988)から5号(1989)、さらに変更後の1990年度(1990)を所蔵している場合)

[例追記] タイトル変遷誌には注意する。書誌レコードが

変遷前 VLJR:1(1990)-10(2000)

変遷後 VLJR:11(2001)-15(2005)の場合

変遷前 HLV:1-10

変遷後 HLV:11-15

× 変遷前 HLV:1-13 変遷前誌一括して登録しないよう注意する。

D5 巻次変更のセミコロンの位置は、当該書誌のVLJRフィールドでの位置と対応させる。ただし、所蔵範囲外での巻次変更の事実については記入しない。

D6 目録対象資料上での、採用しようとする年次表示が複数の年にまたがる場合は、年次の幅が最も広くなるように、所蔵開始年次としては最も古い年を、所蔵終了年次としては最も新しい年を採用する。

VLJR:1号 (1981/1982)-

HLJR:1981-1986

HLV:1,3

(1号(1981/1982)と3号(1985/1986)を所蔵している場合)

[例追記]年次 1988/1989年から1990/1991年のものを所蔵する場合

HLJR: 1988-1991

× HLYR: 1988/1989-1990/1991

D7 実際にはまだ所蔵していないが、購入予定のある雑誌の所蔵巻次データとしてはアステリスク(*)を記入する。

HLJR:*

HLV:*

<注意事項>

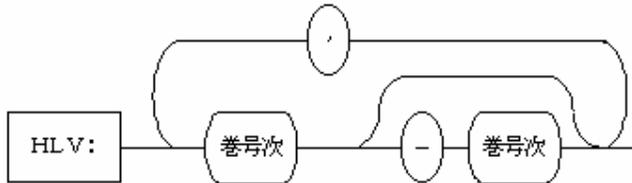
(1) アラビア数字とハイフン(-)、セミコロン(;)以外の記号・文字は使うことができない。

- (2) 出版年ではなく年次を記入する。年次と出版年とを混同しない。
- (3) 所蔵年次の範囲が、その資料の年次の範囲を超えないように注意する。

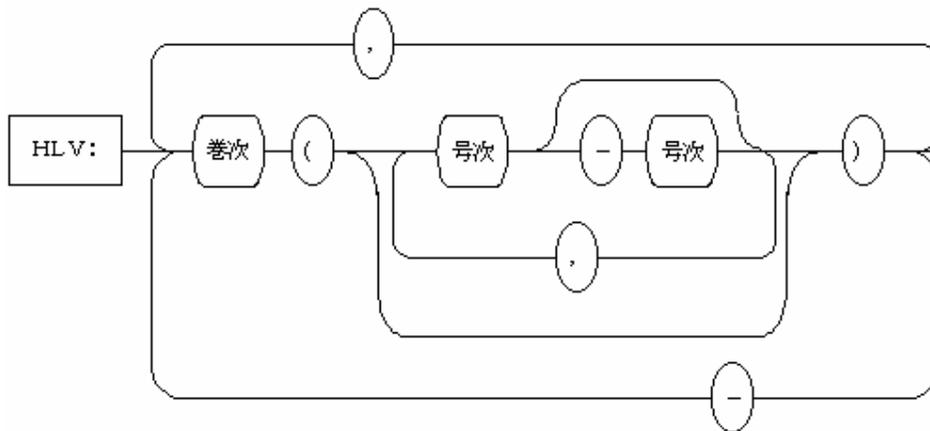
17.2.2 HLV

17.2.2B〔記述文法〕

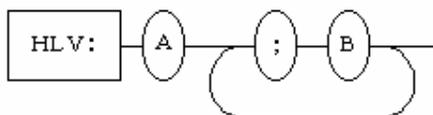
1) 巻（又は号）のみの場合



2) 不完全巻の表示〔この前後に の記述文法が続くことがある。〕



3) 巻次変更がある場合〔A、Bの部分の記述文法は、1)又は2)の全体である〕



17.2.2D〔データ記入及び記入例〕

D7 巻次の表現

D7.1 巻レベルと号レベル

D7.1.1 記入方式は、実際に目録対象資料上に表示されている表現にかかわらず、巻レベル・号レベルの2階層によるものとする。

D7.1.2 巻レベルの数字のあと、その巻レベルに従属する号レベルの数字を丸括弧(())に収めて記入する。ここで数字とはアラビア数字を指す。

VLJR:Vol. 1, no. 1 (1985.10)-

HLV:2(1)
(Vol.2,no. 1のみ所蔵)

VLJR:1985. 6 (1985. 6)-
HLV:1988(7)
(1988.7のみ所蔵)

VLJR:Vol. 1, no. 1, pt. 1 (1980.1)-
HLV:1(2)

(目録対象資料上での実際の表現が3階層である場合、対象資料は各号ごとPt.1,2,3と分冊刊行されている。Pt.1,2,3すべてを所蔵していない号は欠号扱いとなる。
Vol.1,no.2のみPt.1,2,3すべて所蔵)

[追記例]
アラビア数字、修飾語(巻、通巻-号、Vol. No. など)は除去して記入する。
Vol.3,No6
HLV:3(6)

D7.1.3 下に従属するものがない1階層の表現方式の場合は数字をそのまま巻レベルとして記入する。

VLJR:1 (1935.6)-
HLV:8
(8のみ所蔵)
VLJR:1967 (1967)-
HLV:1967
(1967のみ所蔵)

D7.1.4 雑誌の個々の出版物理単位それぞれを識別・順序付けするための記号に対し、何が巻レベル・号レベルに相当するかを一般的に定義することは困難である。そこで、ここでは目録対象資料上での実際の表現に対して記入する上で、「巻レベル」(丸括弧に収めずに記入する)・「号レベル」(丸括弧に納めて記入する)として扱うものの具体例を示すことにより定義に代える。

目録対象資料上での実際の表現	記入上でのレベル	巻レベル	号レベル
1階層	号 ¹⁾ 通号 / 号 巻 年次	号 通号 ²⁾ 巻 年次 - - -	
2階層	号 ¹⁾ - 分冊 巻 - 号 ¹⁾ 巻 - 号 / 通号 巻 - 月次	号 巻 巻 巻	分冊 号 号 月次

	巻 - 分冊 年次 - 月次 年次 - 号 ¹⁾	巻 年次 年次	分冊 月次 号
3階層	巻 - 号 ¹⁾ - 分冊	巻	号 ³⁾

- 1) 表示上あるいは実質上、通号である場合を含む。
- 2) 通号が変遷前誌から引き継いだものであり、号のほうがその逐次刊行物固有の巻次である場合は、号を採用する。
- 3) 号レベル以下のものが全部揃っていない場合、その号レベルは欠号扱いとする

D7.2 数字以外のデータ

D7.2.1 それ自体には数値的な意味を持たない字句・単位(「巻」、「号」、「年」など)は削除し、数字のみの表現にする。

VLJR:1990年3月号 (1990.3)-

HLV:1991(7)

(1991年7月号のみ所蔵)

VLJR:2巻3号 (昭45.3)-

HLV:4(5)

(4巻5号のみ所蔵)

D7.2.2 元号を含むものは、元号を削除する。

VLJR:昭和41年度 (昭41)-

HLV:43

(昭和43年度のみ所蔵)

D7.2.3 アポストロフィを使用するなどして短縮された西暦紀年は4桁に補正する。

VLJR:'90 ('90)-

HLV:1990

('90のみ所蔵.西暦紀年を4桁に補正して記入する)

D7.2.4 巻次の表現方式として、アラビア数字以外の表記によるものは、アラビア数字に変換する。また、数値以外の表記による巻次を示す表現であっても、刊行順に従って数字表現に変換する。

VLJR:Jan. 1987 (Jan. 1987)-

HLV:1987(1) (1987 Janのみ所蔵)

VLJR:1巻春号 (1991.4)-

HLV:1(3) (1巻には春・夏・秋・冬各号が存在し、その内秋号のみ所蔵)

HLV:2()

[例追記]

一卷二号 HLV: 1(2)

Vol. 3, no. 6 HLV: 3(6)

平成元年師走号 HLV: 1(12)

月刊の場合

1990 March HLV: 1990(3)

月刊の場合

昭和54 年秋号 HLV: 54

同一年が「春」ではじまる季刊の場合

D7.2.5 部編表示に対応し、その部編内での各巻号の識別には関与しない記号等は削除する。

VLJR:Vol. 1A, no. 1 (1990)-

HLV:1(1)

(Aは当該書誌の部編表示「Section A」に対応する。Aは削除。部編表示が異なる資料は別書誌とする)

D7.2.6 雑誌の初号に「創刊号」あるいはそれに類似の表示しかない場合、これを数字表現に変換するにあたっては、「創刊号」が当該雑誌の巻次表示体系の中で何号に相当するかを、その後の巻次表示から判断する。「創刊号」しか所蔵していない場合は、暫定的に「1」として記入する。

VLJR:創刊 [1巻1] 号-

HLV:1-3

(1巻より3巻まで完全に所蔵)

D7.2.7 「創刊号」あるいは1号等に先んじて「創刊準備号」若しくはそれに類似した表現のものが存在する場合は、これを書誌的初号とみなし、記入にあたっては巻レベル数値として「0」を採用する。

VLJR:創刊準備 [0] 号-

HLV:0-4

(「創刊号」に先んじ、「創刊準備号」が1冊のみ刊行され、これより4号まで完全に所蔵している場合)

VLJR:創刊準備 [0巻1] 号-

HLV:0(1-2)

(「創刊号」に先んじ、複数の号が刊行され、書誌的初号に相当する号及び第2番目に刊行されたもののみ所蔵している場合)

創刊号や、1号の前の創刊準備号、あるいはそれに類似した表現のものが存在する場合は、これを書誌的初号とみなして記入する。

[例追記]

創刊号 HVL: 1 *次号が2巻または2号の場合

創刊準備号 HVL: 0 *次号が1巻または2号の場合

D8 継続所蔵の表現

D8.1 欠号の有無

D8.1.1 巻レベルでの欠号 (= 非所蔵巻) の存在は、その数字を記入せず、コンマ (,) で区切ることで表現する。

VLJR:1号 (1991)-

HLV:1,3

(1号,3号を所蔵し、2号は所蔵していない)

D8.1.2 号レベルの欠号が1冊でも存在する巻(=不完全巻)は、巻レベルの数字の他に、その号レベルを次の2通りのうち、いずれかの方法で記入する。

(1) 丸括弧内に実際に所蔵する号レベルの数字を列記する

(2) 号レベルの数字を記入せずに丸括弧のみ添える

いずれの方法をとるかは選択可能であるが、一度採択した方法は当該所蔵レコード内で一貫して使用し、原則として双方の方法を混用してはならない。

VLJR:1巻1号 (1987)-
HLV:2(2,4),4(3)
(2巻2号、2巻4号、4巻3号を所蔵する場合)

VLJR:1巻1号 (1987)-
HLV:2(),4()
(2巻2号、2巻4号、4巻3号を所蔵する場合)

D8.1.3 同一巻レベルに属する号レベルは、同一の丸括弧内に収めて記入する。

D8.1.4 号レベル欠号の全くない巻(=完全巻)は、丸括弧及び号レベルの記入は行わず、巻レベルの数字のみを記入する。

D8.2 継続表示

D8.2.1 号レベルにおいて、継続して所蔵している区間はその先頭の号レベル表示と末尾の号レベル表示をハイフンで結合して表す。継続が途切れる箇所はコンマで区切る。

VLJR:1巻1号 (1987)-
HLV:1(1-9,11-12)
(1巻の1号から9号、11号と12号を継続して所蔵し、10号が欠号である場合)

D8.2.2 完全巻で継続して所蔵している区間は、継続区間の先頭の完全巻表示と末尾の完全巻表示をハイフンで結合して表す。不完全巻、非所蔵巻の出現により完全巻としての継続が途切れる箇所はコンマで区切る。

VLJR:1巻1号 (1987)-
HLV:1-8,9(1-9,11-12),10-11
(1巻から8巻まで、及び10巻と11巻は完全巻で所蔵し、9巻が不完全巻である場合)

D8.2.3 不完全巻ばかりで継続して所蔵している区間は、丸括弧のみを添えた形の不完全巻表示で表現している場合に限り、継続区間の先頭の不完全巻表示と、末尾の不完全巻表示をハイフンで結合して表現することができる。完全巻あるいは非所蔵巻の出現により継続が途切れる箇所はコンマで区切る。

VLJR:1巻1号 (1987)-
HLV:1()-8(),9,10()
(1巻から8巻まで、及び10巻は不完全巻で所蔵しているが、9巻が完全巻である場合)

[例追記] 完全巻の表示(号レベルの欠号が1冊でもある巻)は、D8.1.2(1)(2)の方法で

記入するが混合してはならない。

- HLV:2(2,4),4(3-5) (1)の記載
- HLV:2(),4() (2)の方法の記載
- × HLV:2(),4(3-5) (1)(2)のいずれかに統一する
(2巻2号、4号、および、4巻3号から5号を所蔵する場合)

(2)の方法に限り不完全巻のかぎりの連続所蔵をハイフン(-)で結んで、記入することができるが、(1)の方法で不完全巻同士をハイフンで結ぶことはできない。

- HLV:1()-8(),9,10
- × HLV:1(1)-8(4),9,10(7)

D8.2.4 以上において、ハイフンはその両端で使用された表示方式を一貫して保った形の継続所蔵を表現することをその目的としている。継続所蔵一般に使用されるものではない。

D9 複数の巻次表示方式がある場合

D9.1 同時に異なる表示形式による巻次が存在する場合は、VLYRフィールドで優先採用した表示方式で所蔵巻次を記入し、VLYRフィールドにイコール以下に記入した別方式やVLYRフィールドに記入しなかった方式による巻次表示方式では記入しない。

D9.2 以下に、表示方式に対する優先採用の基準を示す。VLYRフィールドに記入が存在しない場合は、本基準に従って複数の表示方式間の優先順位を判定する。

- (1) その雑誌固有の巻次表示は他の雑誌と共有する巻次表示より優先
- (2) 変遷後に付与された巻次表示は変遷前誌から引き継いだ巻次表示より優先
- (3) 2階層の巻次表示は1階層の巻次表示より優先

- VLYR:1巻1号 (1970.8)- =通号12号 (1970.8)-
- HLV:1(1-11)
- (巻号による2階層の表示と通号による1階層の表示がある場合、2階層の表示を優先して記入する。)

D10 巻次変更の判定基準

以下に、所蔵データ記入にあたって巻次変更扱いとみなす基準を示す。

- (1) 従来の巻次表示方式よりも優先順位が上位の巻次表示方式が出現した場合

- VLYR:1号 (1985.7)-72号 (1986.7); 7巻1号(1986.8)- = 73号(1986.8)-
- HLV:1-72;7-9 <...(HLVはセミコロン(;)前後に空白をいれない)
- (巻次変更前の1号から72号、変更後の7巻から9巻を完全巻として所蔵している場合)

- (2) 複数存在した巻次表示方式のうち、当初採用した巻次表示方式が表示されなくなったために、順位がより下位であった巻次表示方式を繰り上げ採用する場合

- VLYR:1980年1号 (1980.8)-1985年12号 (1985.7) = 1号 (1980.8)-72号 (1985.7); 73号(1985.8)-
- HLV:1983(2-12),1984-1985;73-80
- (巻次変更前の1983年2号から1985年12号、変更後の73号から80号まで所蔵してい

る場合)

(3) 巻次の数値が後退あるいは反復、若しくは極端に飛躍する場合(単なる誤植を除く)

VLJR:-昭和36年版(昭36);昭和36年度(昭36)-

HLV:31-36;36-45

(巻次変更前の昭和31年版から36年版、変更後の昭和36年度から45年度まで所蔵している場合)

VLJR:-昭和64年版(昭64);平成2年版(平2)-

HLV:58-64;2-3

(巻次変更前の昭和58年版から64年版、変更後の平成2年版から3年版まで所蔵している場合)

ただし、次のような場合には巻次変更とみなさない。

(1) 巻次の呼称や、巻次体系の階層が変化するが、巻レベルの数値が一貫している場合

VLJR:Vol. 1 (1955)-no. 20 (1960)

HLV:1-20

(資料表記上は、Vol.1-Vol.12、No.13-No.20となっているが、数値が連続しているため巻次変更とはしない)

VLJR:1号(1988.2)-

HLV:2-4

(3号に続いて4巻1号が刊行されているが、巻レベル数値が連続しているため巻次変更とはしない)

VLJR:[1985], 1号(1985.1)-[1987], 12号(1987.12)

HLV:1985(1-11), 1986-1987

(1年をサイクルとして1号から12号まで刊行される資料に対して巻レベル数値として年次を補い、号の数値が振り出しに戻って反復する度に巻次変更とはしない)

(2) 他の雑誌と巻次体系を共有しているために、その雑誌としての巻次が不連続になる場合

VLJR:3号(1988)-

HLV:3-9

(実際には当該タイトルの下で刊行されているのは3,6,9号のみであるが不連続となる度に巻次変更あるいは欠号扱いにはせず、継続所蔵として表現する)

(3) 単なる誤植のために巻次の数値が後退・反復・飛躍する場合

(4) タイトルに雑誌全体に関わる番号付けが変更・追加された場合(タイトル変遷とみなして別書誌レコードを作成する)

[追記例]

なお、巻次変更と判定した場合、対応する書誌レコードのVLJRフィールドにその記述が存在していないときには、必要な記述を行う。

17.2.2E《注意事項》

E1 アラビア数字、ハイフン (-)、コンマ (,)、丸括弧 (()) 及びアスタリスク (*) 以外のデータは記入できない。シャープ (#) は不使用とする。

E2 巻レベルと号レベルの間をコンマ等丸括弧以外の記号で区切ってはならない。

E3 表示上の「号」と記入上の「号レベル」を混同してはならない。1階層のみの表示の場合は、たとえ「号」という名称であっても、「巻レベル」として丸括弧に収めずに記入する。

E4 記入に際して、スペースは一切挿入してはならない。

E5 所蔵巻次の範囲が、当該書誌の巻次の範囲を越えてはならない (実際は変遷前誌、変遷後誌に付けるべき所蔵データである可能性がある)。

E6 継続所蔵を表現する際に、ハイフンで結合することが可能なのは、次の3つの場合に限る。種類の異なる表示を相互に結合することはできない。

(1) 号レベル表示同士

(2) 完全巻表示同士

(3) 丸括弧のみを添えた形の不完全巻表示同士

また、号レベルの数字を丸括弧に収めて記入した不完全表示はいかなる表示とも (同種の表示とも) 結合できない。

E7 数値として隣接した同種の表示方式による所蔵データの記入にあっても、その結合にはコンマではなくハイフンを使用する。

E8 刊行頻度が隔月、隔年等であることにより、巻次数値が連続しない場合であっても、継続所蔵区間の先頭と末尾をハイフンで結合して表す。

FREQ:g

VLYR:1960 (1960)-

HLV:1960-1962,1966,1970

(隔年刊行の資料であり、1961は刊行されていない)

E9 他の雑誌と巻次を共有しているために、その雑誌の巻次としては不連続になる場合や、誤植のために巻次が飛躍したりする場合は、巻次が連続していなくとも、その雑誌としての巻号が揃っている区間は継続所蔵扱いとすることができる。その雑誌に対しては存在しない巻次について欠号扱いして、所蔵巻次を逐一列記する必要はない。

この際、NOTEフィールドに巻次のとび方や誤植の存在について注記を施しておくことが望ましい。

E10 合併号は、物理的には1冊であっても所蔵巻次の記入の際には別個の号が継続したものとみなす。

VLYR:1/2/3号 (1980.1)-

HLV:1-3

(1号2号3号合併号を所蔵している場合、それぞれ別個の号を継続して所蔵していたのと同等とみなす)

E11 巻次変更が存在するが、変更直前直後の号を所蔵していない場合であっても、変更前の巻次と変更後の巻次の間にはセミコロンを記入する。

VLYR:1号 (1950)-5号 (1953) ; 4年1号 (1954)-

HLV:2;6(2)
(所蔵しているのは変更前は2号のみ、変更後は6年2号のみであるが、この場もセミ
コロンの区切って記入する)

E12 年月次の表示方式の変更は巻次変更とみなさない。ただし、巻次表示が存在しないた
めに巻次として採用した場合はその限りではない。

E13 巻次変更の判定において、巻次の数値が反復する場合は通常巻次変更とみなすが、1
階層のみの表示方式で、その数値が組となって継続的に反復する際には数値が振出しに戻
るたびに巻次変更扱いにするのではなく、適宜の巻レベル数値(年次等)を補い、巻次が
一貫して連続するものになるよう調整の上記入する。

E14 タイトル変遷あるいは休・廃刊によって、当該書誌が巻次の途中の号で始まったり、
終わったりする場合は、各雑誌についての該当巻の構成号をすべて所蔵しているならば完
全巻として扱う。

VLJR:1巻1号(1983.1)-6巻2号(1988.2)

HLV:1-6

VLJR:6巻3号(1988.3)-

HLV:6-8

(変遷前誌は6巻2号で終了、後誌が6巻3号より開始。前誌における6巻は1号と2号を所
蔵、後誌における6巻は3号以降すべての号を所蔵している。この場合は、それぞれ
を完全巻扱いとする)

VLJR:1巻1号(1948.1)-21巻10号(1968.10)

HLV:1-21

(通常各巻12号まで刊行されているが、最終21巻は10号で終了している。この場合、
21巻1号から10号まですべて所蔵しているなら、21巻は完全巻扱いする)